

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170300521		
法人名	株式会社ライフサポートNEO		
事業所名	原古賀紀水苑		
所在地	佐賀県鳥栖市原古賀町854番地		
自己評価作成日	平成24年3月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成24年3月30日	外部評価確定日	平成24年5月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none">・個々の入居者様の個性や生活歴、身体状況などに合わせて個別ケアを重視し、日々の介護に取り組んでいます。・入居者様がご家族やご友人、地域の方々交流を持ち続ける事が出来るように支援させて頂いています。・入居者様主体のケアが出来るように自己決定して頂ける機会を持つと共に、意思能力が不十分な方においてもその方の表情や仕草などよく観察し、職員同士で意見交換を行いながら、その方の望まれる生活に近づけるように日々努めています。・個々の入居者様の残存能力を観察し、日常生活やレクリエーション時に活用して頂くことで、ADLが低下しないように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>鳥栖～川久保線の麓小学校前から徒歩5分、新鳥栖駅から10分程の静閑な住宅街の一角に位置する木造平屋造りのグループホームで、敷地内の南側には季節の花壇と野菜畑があり、リビングからウッドデッキに出て外を眺める事が出来、入居者を和ませてくれる。個別ケア(パーソンセンタードケア)を重視し、入居者の持てる残存機能の維持・ADL低下防止に努めている。又、食事は在宅の延長のように毎日の3食を利用者と相談・決定しており、栄養バランスについては本部管理栄養士に献立を提出し、アドバイスを貰っている。職員は、昼食・レクリエーション・夕食担当と役割があり、スムーズな支援が出来ている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に、理念を唱和している。また、年度毎に管理者が理念を基に運営計画をたて、職員一同が周知し実践に繋げている。	職場理念の「利用者の身になって、言葉に耳を傾け、共に歩む」と運営理念の「利用者が日々自分らしく、健康で穏やかに安心して生活していただける地域に根ざした施設づくりを行います」を職員で唱和し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月欠かさず、隣保藩の溝掃除に参加している。また受診時や散歩に出た際は、積極的に挨拶を交わし、交流を図っている。地域で行われる行事に、希望者には進んで参加して頂くようにしている。	自治会に加入し、毎月隣保班の清掃に参加をして、コミュニケーションを図っている。又、地域主催の運動会や文化祭には利用者にも進んで参加して頂くようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護職員基礎研修の実習の受け入れを行い、介護技術の指導や認知症の方の理解や支援の方法を指導している。また、来苑者より相談がある場合は随時対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、苑行事の計画や実施状況の報告、苑での介護の取り組みや方針など意見交換を行い、上がった意見は調整会議時に全職員で再度検討し、サービスの質の向上に努めている。	運営推進会議は2か月に1回開催し、ホームの行事計画や実施状況・運営状況・介護の取り組みや方針等意見交換を行い、そこでの意見は調整会議時に全職員で再検討し、サービスの質の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議時に地域包括支援センターの職員に困難事例の相談をさせて頂いている。また、鳥栖広域連合にも積極的に足を運び助言を頂いている。	運営推進会議時に鳥栖西地区地域包括支援センター職員の参加があり、困難事例等の相談をしている。介護保険組合にも運営等の報告や研修会等積極的に参加し、助言を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に施錠はせず、帰宅要求などで外出を希望される方は、職員が同行し気分転換をして頂いている。身体拘束ゼロに向け、どういった行為が身体拘束に当たるのか意見交換を行っている。身体拘束ゼロのマニュアルも閲覧している。	職員は、身体拘束の弊害を良く理解しているが、利用者の夜間の起居時の転倒防止のため、家族の要望によりベット柵をしている。玄関の施錠はされておらず、自由に出入り出来るようにしながら見守りしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	FCでの勉強会に参加し、参加できなかった職員には調整会議にて伝達を行い、虐待のないケアに努めている。虐待防止マニュアルも閲覧している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度についての研修会に参加している。参加できなかった職員にも研修内容を報告している。また必要時にはご家族へも説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約を締結して頂く際は、ご家族が十分な理解と納得をして頂けるように説明させて頂いている。改正等についても同様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様より要望や意見等あった際は、朝礼時などに意見交換を行い、全職員が周知できるように申し送っている。地域運営推進会議時に、職員から問いかけをすることにより、意見や要望等が話しやすくなるとご家族より助言を頂いたので、職員から尋ねるようにしている。	利用者の要望や意見等があった時は、ただちに調整会議にて検討し、全職員が周知をしサービスの向上に反映させている。家族の面会も頻繁にあり、その折には日々の支援の中での利用者の様子を報告し、職員も問いかけして要望等聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、本社から個人面談に来ており、その際に会社への意見や提案、要望などが出来ている。個人面談以外でも、管理者に上がってきた意見等はいつでも代表者に話せる体制ができており、検討し反映に向け取り組んでいる。	月1度、本社の代表者等の個人面談が有り、その際には運営等に関する意見や要望等が提案できる。又、管理者は月1回の同一法人の施設運営会議で職員の意見等を報告したり、何時でも代表者に繋げ、運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社が掲げるスリー宣言に対し、各自目標管理シートを作成し、日々の介護に反映している。管理者は目標と実施状況を職員と面談を行ったうえでシートに評価を記入し、代表者に伝えている。代表者と職員が直接意見交換も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は目標管理シートや個人面談、管理者や職員の意見、実際に介護現場を見ることにより、一人ひとりのケアの実際を把握している。社内では合同研修が実施されており、社外の研修も案内している。資格支援制度も導入されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鳥栖のグループホーム協議会に加入し、開催されている研修には積極的に参加するようにしている。また、定期的に鳥栖地区の事業所を訪問し、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至る前に直接ご本人と面会し、アセスメントを収集し、入居後安心して生活して頂けるように環境の整備などを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至る前からしっかりと情報交換や意見交換を行い、不安の軽減に努めている。また質問や意見、要望等はいつでも話して頂けるよう、初期の段階でお話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学の方や入居前の面談の際、介護保険を利用した施設外サービスや、要介護者のニーズに合うサービス等情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のADLに合わせ出来る範囲でのお手伝いはして頂いている。また、季節にあった保存食づくりや昔の習慣などは入居者様より学ばせて頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際にご家族の入居者様に対する接し方から学ばせて頂いていることが多々あり、学ばせて頂いた点は報告するようにしている。状態報告を行いながら、入居者様の要望が叶うように、職員に出来ない事はご家族に協力を仰いでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に馴染みの物を持参して頂くようお願いしている。また、馴染みの人に面会に来て頂けるように働きかけ、来苑時は接遇をしっかりと行い、また来て下さるような環境作りに努めている。	近隣からの入居者が多く、馴染みの人の面会も多い。又、協力医院は徒歩で5分位の所にあり、散歩を兼ねて受診に行ったり、食材の買い出しにショッピングセンターに行くなど知人と会う事が出来る。近くの駄菓子屋にも良く買い物に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本的にご本人のペースで生活して頂いている。耳が遠い、言葉がうまく出ないなどの理由で他者とのコミュニケーションが取りづらい場合は職員が介入し、話の懸け橋になるよう努めている。レクリエーション時には入居者様同士が交流できるような配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のために退去された方のお見舞いに定期的に行っている。退去者やそのご家族からのご相談はいつでも受け付ける旨、お伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの入居者様の言葉に耳を傾け、意向の把握に努め、出来る限りその意向に近くような対応を行うよう努めている。意志を表すことが困難な方に関しても、その方の表情や仕草、生活歴や個性など多方面から考え、職員同士で意見交換を行い、意向の把握に努めている。	利用者の要望や意見等があった時は、ただちに調整会議にて検討し、全職員が周知をし、サービスの向上に反映させている。家族の面会も頻繁にあり、その折には日々の支援の中での利用者の様子を報告して要望等聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族や、担当ソーシャルワーカー、ケアマネージャー等より情報提供を頂いている。またご家族や友人の面会時には積極的に、入居者様のこれまでの暮らしについてお尋ねしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で入居者様をしっかりと観察し、職員同士で情報交換や意見交換を行い、現状の把握に努めている。また情報は記録に残し全職員が周知できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を使用し、各入居者様の担当者がご家族や他職員の情報を取り入れながら、3か月に1度アセスメントを行い、全職員で回覧し、修正を加えている。そのアセスメントを踏まえ、介護計画書の作成をしている。	職員は利用者を担当制にしており、他職員の情報や本人や家族の意向を汲み取りながら、3ヶ月に1度アセスメントを行い、本人本位の介護計画を作成している。状態に変化が生じた場合には随時見直し、現状に沿った計画で支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は経過記録に詳細に記載し、情報を共有している。また調整会議時に個々の入居者様に関する意見交換を行い、介護計画書の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険外でのサービスなど、ご本人のニーズに沿った情報提供を行っている。また、ご意見頂いたサービスについては多機能化に向け会社で検討を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に病院があり、歩いて馴染の病院へ定期受診している。また駄菓子屋も近隣にあり、病院受診の帰りや、天気の良い日に散歩を兼ねて買い物に行っている。地域行事へも積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に協力医療機関を利用しているが、状況に応じた病院の選択、ご家族ご本人が希望される医療機関への受診が出来るように努めている。	基本的に協力医療機関を利用しているが、希望される場合は入居前からのかかりつけ医の受診も出来るようにしている。受診は職員で対応しており、家族への情報を密に行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に、日々のかかわりの中でとらえた情報や気づきを頻繁に伝える事が出来ている。看護師より管理者に報告があり、管理者からご家族への受診の促しが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は定期的に訪問し、担当医師、ソーシャルワーカー、看護師と情報交換を行い、早期の退院に向け努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在まで看取りはないが、入居契約を締結する際に終末期ケアにおける方針をご説明し、同意を頂いている。またアセスメントシートの更新時にさりげなくご本人の意向を確認するとともに、ご家族にも定期的に意向の確認を行っている。	入居契約時に、利用者や家族に方針説明をし、同意を得ている。又、随時本人の意向や家族の希望を再確認を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々の業務の中で、その都度対応について各職員へ指導、伝達を行っている。また、自施設において勉強会を実施予定であり、消防署を招いての応急救護の研修も行いたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署立会いでの避難訓練及び自主訓練を実施している。地域に消防団がないため、地域の方々に協力を依頼している。スプリンクラーの設置工事もできている。東北での地震を教訓に避難場所への避難経路・方法を貼り出している。	消防署立会いで、年2回避難訓練や自主訓練を実施している。ホームと消防署は直通電話できるようになっており、スプリンクラーも設置している。地元消防団が無いので、地域に住む職員2名や近隣の方々に協力依頼をしている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの入居者様の個性や人格を尊重し、声掛けを行っている。疑問を感じるような言葉かけがあった際は、職員同士で指摘し合うように努めている。	利用者一人ひとりの個性や人格に配慮した声かけを行っている。また、職員間でも注意や指摘し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様にお尋ねしたり、言葉に耳を傾けることで、自己決定の機会を持って頂くように努めている。また、意思能力が低下された方においても、なるべくご本人の意向をくみ取れるように、仕草や表情をよく観察し、意見交換を行いながら共有された自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活歴や生活習慣、身体状況を踏まえ、その方のペースで過ごして頂けるように努めている。入浴や食事などに関しても、ご本人のご意向があった時は時間をずらすなどし、職員側の都合で介護することがないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後、食事後の整容を徹底している。更衣時の衣類は出来るだけ一緒に選んで頂けるように努めている。また、希望される方には、お化粧する機会を提供したり、マニキュアを塗らせて頂き、おしゃれ心を持ち続けて頂けるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを考える際に入居者様にお尋ねをしてみたり、個々の入居者様の出来る事を探しながら、食事の準備や片づけを共同作業していただいている。メニューに季節の野菜を取り入れたり、見た目がきれいな盛り付けにも配慮している。	食材は週2回程度利用者とドライブを兼ねて近くのショッピングセンターへ買い物に出掛け、毎日その日のメニューを利用者と共に決めている。又、利用者の出来る力を借りながら準備や後片づけをしている。職員3人共介助しながら同席し、同じ食事を摂り、和やかな雰囲気である。。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に水分摂取の時間を確保し、一人ひとりに十分に水分を摂取して頂けるように努めている。食事摂取量は記録に残し、摂取量が少ない方に関しては捕食で補うことが出来るように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを徹底して頂いている。自力で行える方には声掛けを行ない、介助を要する方はその方の状態により、スポンジブラシなどを使用し口腔内の清潔に努めている。居宅療養管理指導を依頼し、全入居者様の口腔内もチェックして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗を防ぐため、排泄チェック表を使用し定期的なトイレへのご案内、声掛けを行っている。また、オムツを使用されている方に関しても、なるべくトイレで排泄して頂けるように定期的にトイレ誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレへ声かけや誘導をしている。紙パンツから布パンツやパットへとトイレでの排泄により自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食後や排便の確認が取れていない時は、トイレに座って頂き自然排便して頂けるように努めている。食事のメニューにも食物繊維を多く含むものを取り入れるようにしている。排便状況を主治医に報告し、便秘をされないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に週3回の入浴だが、ご本人の拒否が強い時には無理強いせず、時間をずらして入浴して頂いている。また日曜日は希望される方に入浴して頂けるようにしている。	基本的には週3回の入浴としているが、日曜日は希望する利用者の特別入浴日に設定している。入浴を嫌がられる利用者には無理強いせず時間をかけて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活習慣を尊重し、休養をとって頂いている。基本的に体力が落ちられている方は午後からしばらくの間休養して頂いているが、その日の状況やご本人の意向によっては、ソファでゆっくり過ごして頂くこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容が変わった際は、申し送りノートに記載し、周知徹底できるように努めている。処方箋は個人ファイルにファイリングし、閲覧しやすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活歴や会話内容、ご家族からの情報を踏まえ、ご本人の得意な事や興味のある事は積極的に行って頂く機会を作っている。また季節の保存食作りなど、昔からされていたことをアクティビティケアに取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苑行事にて外出や買い物の機会を提供している。また、日常的な買い物も入居者様にお声を掛け、希望される方に同行して頂いている。職員で対応できない場合は、ご家族に協力して頂いている。	かかりつけ医院への診療や近くの駄菓子屋への買物、食材買出しやドライブ、ホームの行事での外出等、日々声かけをして外出支援している。職員で対応出来ない場合は、家族に協力してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人財布は職員が管理しているが、訪問パン屋が隔週来苑しており、その際は入居者様に好きなものを選んで頂き、自らお金を支払って頂いている。また買い物に行かれる際も、個人財布を持参して頂き、好みのものを購入して頂ける機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙の返事を出す支援を行っている。また、要望があった時は随時電話をして頂けるように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わって頂けるように、時期に合わせて装飾を行っている。また、入居後など場所の混乱がある場合には張り紙などを用い、わかりやすい環境づくりに努めている。快適にお過ごし頂けるよう、温度や湿度の管理も随時行っている。	玄関や出入り口からリビングに続いており、キッチンからも見守りながら作業が出来るようになっている。コーナーにはソファを対面に置き、利用者同士の会話が出来よう配慮し、季節の装飾を施したり花等で飾り、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前のソファやテーブルは入居者様にご自由に利用して頂ける共有スペースにしており、ご本人のペースで利用されている。また、コミュニケーション能力が低下されている方に関しても、他者との交流が図れるように、職員が会話の懸け橋になるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様に心地よく安心して過ごして頂けるように、入居時に自宅で使い慣れた馴染みの物を持ってきて頂き、居室には写真なども掲示して頂きたい事をご家族にお話している。	居室の内4部屋は畳敷きで、心地良く安心して過ごせるよう自宅で使い慣れたタンスや椅子等馴染みの品を持ち込んでいる。又、家族の写真や人形等思いおもいに飾ってある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人ひとりの残存能力を観察し、職員同士で意見交換を行いながら、出来る事はご自分でして頂けるように支援している。出来る限り自立した生活をして頂けるように、出来ないところはさりげなく支援させて頂くよう努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない